【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成21年1月29日(2009.1.29)

【公開番号】特開2006-164285(P2006-164285A)
【公開日】平成18年6月22日(2006.6.22)
【年通号数】公開・登録公報2006-024
【出願番号】特願2005-352581(P2005-352581)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　9/445　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　9/06　６１０Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成20年12月8日(2008.12.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つのプロセッサによって実行されたときに、
１つまたは複数の構成コンポーネントから１つまたは複数の型付きコード表現を作成する動作と、
前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現からプロセッサ実行可能命令ストリームを生成する動作と、
前記生成されたプロセッサ実行可能命令ストリームを含むオペレーティングシステムプロセスを構築する動作であって、前記生成されたプロセッサ実行可能命令ストリームは、前記オペレーティングシステムプロセスが構築された後に変更不能である、動作とを備える動作を実行するプロセッサ実行可能命令を有することを特徴とする１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項２】
前記１つまたは複数の構成コンポーネントは、１つまたは複数のロードモジュールを含むことを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項３】
前記作成動作は、１つまたは複数の型付きコード表現を作成するために複数のロードモジュールを使用することを含むことを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項４】
前記構築されたオペレーティングシステムプロセスの前記生成されたプロセッサ実行可能命令ストリームを実行することをさらに備え、前記生成されたプロセッサ実行可能命令ストリームは、実行中に変更不能であることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項５】
前記生成動作の前に、１つまたは複数のエクステンディングコンポーネントの実行に基づいて前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備え、前記１つまたは複数のエクステンディングコンポーネントは、前記１つまたは複数の構成コンポーネントの一部でないロードモジュールを含むことを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。

【請求項６】
前記生成動作の前に、１つまたは複数のエクステンディングコンポーネントの１つまたは複数のロードモジュールの実行に基づいて前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項７】
前記生成動作の前に、１つまたは複数のエクステンディングコンポーネントの実行に基づいて前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備え、前記更新は、前記１つまたは複数の型付きコード表現に対してランタイムセキュリティ検査を実行する追加のプロセッサ実行可能命令を前記生成されたストリームに追加することを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項８】
前記生成動作の前に、１つまたは複数のエクステンディングコンポーネントの実行に基づいて前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備え、前記更新は、１つまたは複数の型付きコード表現に対するランタイムブックキーピングを実行する追加のプロセッサ実行可能命令を前記生成されたストリームに追加することを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項９】
前記生成動作の前に、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１０】
前記生成動作の前に、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備え、前記更新は、前記１つまたは複数の型付きコード表現に対するランタイムセキュリティ検査を実行する追加のプロセッサ実行可能命令を前記生成されたストリームに追加することを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１１】
前記生成動作の前に、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備え、前記更新は、前記１つまたは複数の型付きコード表現に対してランタイムブックキーピングを実行する追加のプロセッサ実行可能命令を前記生成されたストリームに追加することを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１２】
前記生成動作の前に、自己検査機能を実行する追加のプロセッサ実行可能命令を前記生成されたストリームに追加するために前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備え、結果のオペレーティングシステムプロセスは、それ自体のプロパティを検査するように構成されることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１３】
前記生成動作の前に、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現に新しい型を追加することによって、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１４】
前記生成動作の前に、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現に既存の型に関する新しい関数を追加することによって、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現を更新することをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１５】
前記生成動作の前に、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現に対してグローバル最適化を実行することをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまた

は複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１６】
前記生成動作の前に、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現に対して最適化を実行することをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１７】
前記生成動作の前に、前記１つまたは複数の作成された型付きコード表現に対して最適化を実行することをさらに備え、上記最適化は、前記オペレーティングシステムプロセスの前の実行の記録に基づくことを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１８】
前記生成動作は、さらに、特権プロセッサ実行可能命令を前記プロセッサ実行可能命令ストリームに条件的に挿入することを備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項１９】
プロセスを構築する要求を受け取ることをさらに備え、前記作成動作、前記生成動作、および前記構築動作は、前記要求の受け取りに応答して実行されることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項２０】
前記構築動作の前に、前記動作のうちの１つまたは複数の結果は所望のプロパティおよびポリシの指定されたセットを厳守するかどうかを判定するために前記結果を分析することをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項２１】
前記構築動作の前に、後に使用するために前記動作のうちの１つまたは複数の結果をキャッシングすることをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項２２】
前記プロセスの構築に最終的に必要である内容を定義するプロセスマニフェストを構成し、永続させることをさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項２３】
前記プロセスの構築に最終的に必要である内容を定義するプロセスマニフェストを構成し、永続させることと、
プロセスを構築する要求を受け取ることであって、前記作成動作、前記生成動作、および前記構築動作は、前記要求の受け取りに応答して実行される、受け取ることと
をさらに備え、前記構成し永続させる動作は、前記受け取り動作の前に実行されることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項２４】
前記オペレーティングシステムプロセスの構築に必要なすべてのコンポーネントは、プロセスマニフェスト内で指名されることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒体。
【請求項２５】
第１のおよび第２のオペレーティングシステムプロセスを構築するために前記作成動作、前記生成動作、および前記構築動作を少なくとも２回実行することと
前記第１のオペレーティングシステムプロセスをプロセッサによってアドレス可能なメモリ内の定義されたアドレス空間にロードすることと、
前記第２のオペレーティングシステムプロセスを前記プロセッサによってアドレス可能な前記メモリ内の同一の定義されたアドレス空間にロードすることと
をさらに備えることを特徴とする請求項１に記載の１つまたは複数のプロセッサ可読媒

体。